

# 1 自己評価及び外部評価結果

# (ユニット名 憩いの園 )

事業所番号	0672200177		
法人名	社会福祉法人悠愛会		
事業所名	グループホームメルヘン		
所在地	東村山郡山辺町大字大寺1132番5号		
自己評価作成日	令和4年 7月 15日	開設年月日	平成12年 4月 1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり・楽しく・一緒に」の理念のもと、残存機能を有効に活用し、その人らしい生活が送れる様努めています。施設東側に畑があり、様々な野菜を育てており、心を込めて育てた野菜を食事の際に提供し、収穫の喜びを皆様で分かち合っています。コミュニケーションが苦手な方でも、スタッフが寄り添い、笑顔で傾聴し安心感のある生活をサポートしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 4年 9月 9日	評価結果決定日	令和 4年 9月 27日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全国的にも珍しい6ユニットのグループホームとしてユニット毎に個性を持ち、利用者は家事や行事を行い生きがいをもち楽しむよう、職員同士は時に助け合いながら切磋琢磨しています。事業所理念を念頭に理事長が提唱する「ゲスト(利用者)は恋人」の心得には、利用者をいとおしみ大切に思うことを職員一人ひとりが心に刻み寄り添って生活しています。広い敷地にクリニック・訪問看護ステーション・介護老人保健施設・ケアハウスなどを併設する複合施設の特徴を活かし、受診や体調管理などの医療支援も手厚く行い、利用者や家族の安心につながっています。新型コロナウイルス感染予防のため外出や面会も制限される中、誕生日当日に行う誕生会や手作りおやつなど、日々の生活を工夫し利用者喜んでもらえるよう奮闘している事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
55 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	62 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、ユニットの見える所に掲げている。職員は業務の中で理念を意識しながらケアが出来るように努めている。	事業所理念と共に毎月ユニット毎に目標をたて、主任会議で進捗状況を経過報告しアドバイスし合いながら達成に努めている。繰り返しの訴えや事業所内を歩き回ってしまう利用者にも丁寧に傾聴し、優しく対応する職員の姿に理念の浸透を感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で、交流の機会を設けられずにいる。	コロナ禍以前は、盛んに行っていた地域交流も出来なくなり、地元公民館からの広報誌や、運営推進会議資料を会員の方に配布する際に情報交換を行っている。少ない機会を大事に今までの繋がりが途絶えないように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在新型コロナウイルス感染防止で外出を自粛し、地域の行事開催も目途が立っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月毎に会議を開催していたが、新型コロナウイルスの影響で、外部の方に参加していただくのが難しく、書面や電話にて情報の共有に努めている。	感染防止対策で対面開催が難しいため、利用者・職員に関する活動内容や病気やケガの報告その改善内容も含め、主に郵送で書面報告をしている。意見や質問は電話対応の案内をしているがほとんど無く、顔を合わせられる日を待っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在新型コロナウイルス感染防止のため、町の介護相談員の訪問受け入れや、運営推進会議の開催は中止している。書面や電話にて連絡を行っている。	コロナ対策で連絡をとることが多く、ワクチン接種の際は他市町村に住民票がある利用者も含め町と協力して一括接種に及んでいる。地域包括支援センターなどの依頼に応え福祉支援制度を利用する方の受け入れも行い、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束についての委員会を開催しているとともに、勉強会を設け、職員が同じ考えのもと学んだことを日々のケアに活かしている。	管理者を中心に各ユニット代表で構成する身体拘束廃止委員会を設け、高齢者虐待委員会と共に年間計画で「身体拘束について」や「高齢者虐待防止」について繰り返し研修を行っている。「支援状況抜き打ちチェック」も実施しその結果や改善点も明らかにして話し合っている。利用者に着き目が無くなった場合などは、見守りに徹し抑圧のないくらしを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について学ぶ機会を設けている。身体的のみならず、精神的、また言葉での虐待も無いように常に心掛け、職員同士でも声掛けを行い努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会を設け、知識を増やせるよう努めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、不安な点や疑問点についてその都度確認し、理解が得られるように努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口を設けていると共に、利用者や家族からの意見・要望に耳を傾け、全職員に公表し話し合う機会を設けて改善に努めている。	受診結果報告などの連絡時に利用者の様子を伝え要望や意見を聞き、面会の希望には窓越しで会ってもらうこともあり、工夫して応えている。面会も限られる中、広報紙「グループホームメルヘン」に掲載した写真が家族の安心につながっている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に各ユニットにてスタッフミーティングを行い、ミーティングで出た意見や提案を主任会議で話し合い、日々の業務に反映されるよう努めている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートを活用し、一人ひとりが向上心を持って業務を行い、取り組んだ内容を評価している。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	学習委員会でテーマを決めユニット毎に学び、話し合いを行い、知識や技術の向上に努めている。(現在、新型コロナウイルス感染防止のため、外部研修への参加を自粛している)	外部研修は、感染対策の研修へリモートにて参加し学んでいる。内部研修は年間計画で各委員会が予定した研修を、またユニット毎に実技を伴った学習会を繰り返し行い、アンケートで職員の希望も取り入れ有意義な内容となっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新型コロナウイルス感染防止のため、交流する機会を設けていない。必要時、書面や電話にて情報の共有を図っている。	山形県グループホーム連絡協議会に加入し理事も務めており、現在はリモートや書面で情報交換を行っている。また組織内での出来事を同業者の参考にとその詳細な記録を開示し、感謝や賞賛を得ている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話をしっかり傾聴し、共感する姿勢でコミュニケーションをとり、信頼関係を築けるよう努めている。また家族から情報を得ることで本人がより安心して生活出来るよう支援に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際して、本人同様に家族に対しても、話を伺う機会を設け、本人が安心して生活出来るように一緒に関わられる関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族の要望や状態を把握し、本人の状態に応じて、適切なサービスを提供していく。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりに合わせた生活リズムを大切にし、利用者が出来る事は行っていただき、出来ない事はサポートしている。家庭的な環境、雰囲気作りを行っている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へ日常生活の様子を報告し、情報を共有しながら、利用者を支えていく支援や関係作りを大切にしている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力も得ながら、馴染みの関係が途切れないように努めている。面会に来られた際は面会簿に記入していただいている。（現在はコロナウイルス感染防止のため面会禁止中）			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い同士だけでなく、新しい利用者も自然と溶け込めるよう席の配置の工夫や環境作りを行っている。自然に支える、支えられるという関係も生まれてきている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切に、必要時には相談にのりながら、利用終了後も継続的な付き合いが持てるよう心掛けている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時、気持ちシートを活用し、一人ひとりの思いや希望など把握できるように努めている。困難な場合は本人だけでなく家族からの情報も踏まえて検討している。	「私の姿と気持ちシート」で利用者の意向や抱える問題を明らかにし、「生活歴一覧表」を作成しその方の人生を年代毎に詳しくまとめ、全職員が共有し理解している。利用者が出来ることは見守りの中でやってもらい生活リハビリとなっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族に対して利用者本人の生活歴を聞き取りし、入居後の生活に活かしている。入居後も回想法などを通じて情報を得たり、興味をもつ話題を提供し、これまでの暮らしの様子などを聞く機会を作っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態観察や会話を通じて、一人ひとりの状態を把握し、病気の早期発見や認知症の進行状態の把握にも努めている。また毎日の体操、歩行練習、脳トレなど、楽しみながら行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中で課題や問題点を見つけ、本人や家族の意向を反映しながら、本人に合った介護計画を作成出来るよう努めている。	入居申し込みの際に要望や意向など聞きとったことを主に課題として取り組み、一人ひとりの個性や趣味、利用者同士の相性なども考慮した支援内容にしている。ユニット会議で事例検討を行い、全職員の意見を反映してプラン作成・変更をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	認知症の状況や言動についての気づきを記録し、職員間で情報を共有しながらケアにあたると共に、介護計画の見直しに活かしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地元の民生委員や消防団の方々に協力を得ている。行事などには学生やボランティアの方々からも参加していただいている。（現在、新型コロナウイルス感染防止のため、訪問を休止している。）</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>敷地内にクリニックがあり、早期受診に努めている。受診後は家族へ報告を行っている。要望があれば、他医療機関で受診していただいている。</p>	<p>入居時に家族等の同意を得て、利用者全員が敷地内にある同法人クリニックをかかりつけ医としている。定期的な受診や訪問看護師と医療連携を図って健康管理を行い、家族等からは安心出来るとの声が聞かれている。ちょっとした変化も報告し他科受診の場合は家族の協力を得ている。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護と連携し、支援を受けている。週一回の訪問で利用者の健康状態の把握に努めている。急変の際にはすぐ駆け付け対応している。また同じ敷地に併設しているクリニックメルヘンの医師と看護師との連携も図っている。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は病院関係者や家族との連絡を密にとり、情報交換や相談を行うことで利用者の状態把握に努めている。また早期退院に向けての取り組みや退院後のケアについても話し合いを行っている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期については、入居時に家族へ方針を説明し、意見や要望を聞き取りしている。重度の利用者については早期から医師や家族との話し合いの機会を設け、今後の変化に備えて検討し、チームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>「重度化した場合および看取り介護に係る指針」をもとに入居時に家族等に説明し、協力医療機関のクリニックと訪問看護ステーションと24時間の連絡体制を確保して急変にも対応している。身体状況の変化に応じて医師から説明があり、家族等と話し合い希望に沿えるよう支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を行うだけでなく、赤十字や訪問看護師から心肺蘇生法・AEDの使い方について学び、対応できるよう努めている。(新型コロナウイルス感染防止のため、講師は招かず、三密を避け、少人数ずつの学習を実施)			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	安全委員会を中心に定期的に召集訓練や避難誘導訓練を行っている。各ユニット毎、防災袋と情報カードをまとめてあり、防災に対する意識を高めている。	毎年、敷地内施設合同とグループホーム単独で、あらゆる災害を想定した避難訓練を防災会社の協力を得て定期的実施している。ユニット毎に防災袋を用意し、また利用者の個別の情報カードは首掛け式になっており外部の避難誘導協力者にも判るようにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが利用者の人格を尊重し、敬意を持ち、言葉遣いに注意しながら対応している。職員同士も互いに注意しあえるようにしている。	家族等から入居時に利用者の情報として年代別の「生活歴一覧表」を提出してもらい参考にし、現在の生活の動作を観察して残存能力や得意分野を発揮出来るよう声掛けを工夫している。職員の申し送りなどの話し合い時には利用者の氏名は出さず、部屋番号を使うなどプライバシーに配慮している。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を話しやすい雰囲気作り、入浴等の一対一になる場面での傾聴に努めている。利用者が自己決定出来るよう選択肢を提示したり、利用者本人の普段の様子や希望を書き表した気持ちシートを活用している。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いや体調、その人のペースを大切にし、利用者それぞれの希望に応じた支援ができるよう職員間でもコミュニケーションを図り、希望に沿えるようにしている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを聞き、自分で行うのが難しい場合は家族の協力も得ながら、その人らしくいられるよう支援している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の残存機能を活かして、調理や盛り付けをしていただいている。季節感のある手作りおやつを提供し喜んで頂いている。	食材納入業者から届く献立を利用者の手伝いを得ながらユニット毎に職員と手作りしている。外食はコロナ禍で控えているが、畑で採れた野菜・誕生日の希望献立・行事食・郷土食・おやつ作りなどを取り入れ楽しみな食事となっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの状態を把握し、その人に合った食事形態や食事量・飲み物の工夫を行い、バランスよく摂取できるようにしている。毎日の食事量と水分摂取量を記録している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの準備と声掛けを行い、必要に応じて介助を行っている。義歯や口腔ケア道具の洗浄消毒を行い、衛生管理にも努めている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない誘導や声掛けを行っている。また、可能な限りトイレにて排泄していただけるよう努めている。	チェック表に記録して利用者の排泄パターンを把握し、自力で行く方や時間を見計らっての声掛け誘導などトイレでの排泄を大切にしている。運動・水分摂取・乳製品・腹部マッサージなどを取り入れ便秘予防に努めている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分摂取や適度な運動を行うことで、便秘の予防に努めている。また必要時は腹部マッサージを行い、自然排便に繋げている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の健康状態を把握し、本人の希望も重視し、一人ずつゆっくりと入浴していただけるように対応している。	利用者の体調や希望の時間に合わせ、シャンプー・ボディソープ・入浴剤など好みの物を使用して個浴をゆっくり楽しんでもらえるよう支援している。嫌いな方には無理強いせず声掛けを工夫し、入り口に温泉の張り紙や同性介助するなどの配慮をしている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごし、夜間の良眠へ繋がるよう支援している。室温や照明にも配慮し、安心して眠れるような環境作りに努めている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用・副作用について把握し、症状に応じて医師と相談し用法や用量を調節している。薬の変更時は必ず申し送りを行い情報共有を行っている。また、誤薬がないよう職員同士で声を掛け合い確認し合って対応している。			



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の個性を活かし、役割を持ちながら生活し、生きがいを持っていただけるように支援している。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別外出やドライブなどを行い、気分転換を図っていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、外出の機会そのものの確保が難しい。また、家族と一緒に出掛けることも現在出来ない状況である。	コロナ感染予防のため外出支援は控えているが、職員は屋内でのレクリエーションや行事を利用者が満足出来るよう工夫している。ベランダでの足浴や敷地内の畑で野菜作りなど外気に触れる機会を作り、気分転換を図っている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員が行っている。本人の買い物をする際は、預かっているお金から支払いし、レシートを保管し出納帳に記入している。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、電話や手紙のやり取りが出来るようフォローしながら対応している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただけるように、花や観葉植物を飾ったり、季節の行事の写真を廊下に貼り楽しんでくださっている。利用者の過ごしやすい温度、湿度管理を行っている。またカーテンで光の調節を行い、不快に感じないようにしている。	来訪者の健康チェック、入り口の消毒マット・定期的な換気・空気清浄機の設置と利用者には手指消毒・うがいを励行してコロナ感染予防に努めている。行事の写真や植物で季節感を味わい、温湿度管理や相性を考慮した席順など一人ひとりが居心地よく過ごせるよう支援している。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共通の場にソファを置き、利用者同士が話しやすく、個別でゆっくり寛げる場所を確保している。また廊下にソファを置き一息付ける場所を設けている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に利用者の使い慣れた物を持ち込んでいただき、安心して過ごせるよう努めている。	和室タイプと洋室タイプがあり、ベッド・寝具・テレビなど馴染みのものを持ち込み自宅のように過ごせるようにしている。利用者の身体状況に応じた離床センサーなどを使用し、職員は見守りながら安心・安全に暮らせるようサポートしている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、脱衣場、浴室など利用者の可動域を考え、適宜な場所に手すりを設置しており、自立した生活が送れるよう工夫しながら支援している。また移動域に物を置かないよう環境整備を心掛けている。			